



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

「保険あって介護なし」の状況の抜本的な改善が必要

緊急門前署名行動に30名の職員が参加し300筆以上の署名が集まる（東京・健生会グループ）



全日本民医連が緊急に呼びかけた、介護保険改正法案に対する「介護ウェーブ緊急国会行動」に向けて、健生会グループでは、緊急門前署名行動に取り組みました。署名行動は、5月11日～16日の土日を除く4日間、ふれあいクリニックの門前で朝9時半から1時間の日程で取り組み、延べ30人が参加し署名は300筆以上集まりました。署名の訴えを行っていると、道行く市民から「何の署名ですか？」とたずねられ、「介護保険の改善署名です」と答えました。すると道行く市民は「介護保険なんて使えない！」といった感想が出され、すかさず「介護保険ができるて10年、もっと使いやすい保険にするための署名です」とお願いすると、「それなら」と署名に応じてくれる光景にたびたび出くわしました。「保険あって介護なし」の状況の抜本的な改善の必要性を感じる行動になりました。（健生会グループ社会保障活動推進ニュース2011年5月17日より）

署名行動や地元選出の国會議員との懇談などが取り組まれる 社会福祉法人協立いつくしみの会では5日間連続の夕方街頭宣伝（北海道）

社会福祉法人協立いつくしみの会では、月曜日から5日間連続の夕方街頭宣伝に取り組んでいます。2日目の17日は6名の職員がもみじ台ショッピングセンター前で行動しました。4月に入職したばかりの職員も人生初の署名行動です。買い物客一人ひとりに声をかけるとほとんどの人が快く応じてくれ、30分間とぎれることなく署名が寄せられました。元放送部員という新人職員も得意のマイクで訴えました。メーデー集会からスタートした署名は、1,300筆を超えるました。道北ブロックでは、この2週間で1,000筆を超える署名が寄せられています。職員・家族だけでなく、利用者のご家族にも依頼すると「職場で集めてくるから3,4枚ちょうだい」といった声があつたり、地域の事業所にも「事態は大変なことになっているけれど、私たちにできることをやって、改悪を止めさせましょう」と協力をお願いすると、「生活援助サービスがなくなれば、事業所も大変になる」と、署名用紙を置いてきたその日のうちに「集まったから、取りに来てください」と連絡がありました。一方で「介護保険法改正案」の内容を知らないケアマネジャーもいるなど、まだまだ宣伝不足です。残された時間、まだまだ頑張ります。連絡会では、5月17日に札幌市内10ヶ所の国會議員事務所を11名で訪問し懇談をしてきました。北海道民医連ヘルパー事例集「生活援助がなくなったら、生きていけない」を手渡し、介護保険法改定法案の問題点を示して、制度の抜本改善を要請しました。（介護に笑顔を北海道連絡会ニュース2011年5月17日より）



お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp